

若狭、附中

熊本大学教育学部附属中学校

学校だより

平成30年7月19日

第8号

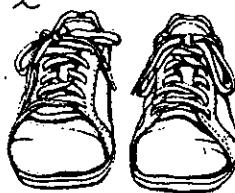
《文責：高木》

M文字数を表示

42・195字のマクソ

夏休みに贈る言葉

この夏休み、生徒の尊い人は、この夏休みに、何とがんばるかと考えておねすか？ せんばさん、夏休みを迎えるといつも思い出す君原健一さん（×キヨタリハヤシクニハシ）



私は、いつも思うことをあるが、それは、いくつかるひとか苦手な人でも地蔵を一回ぐらいい走ったならば、きっと走るのが速くなるとこだわる。

千里の道も一歩から始まる。実行すれば必ず成功する。

練習の一日の成果はない。だが、もう一日抱いて10km走れないことはない。では

もう一歩、さらにもう一歩はとばかりうづうづ。しかし、何が

かが長続きするのかといつも、一

種の精神である。走らなければ、忘れてしまうが、走らなくては、

何の楽しみもないだけのものである。だのに、なぜ練習

が長続きするのかといつも、メーターに差が示されれば

それを上達はないと思つ。それは、とても上達なんか望め

ない。

私は、練習する時、苦しくな

つて、それに負けたやめてしま

つたことは上達はないと思つ。

せいぜい現状維持ぐらいだ。本当

に、どうにもならないと同じ

試験で、いくつかんばってみて

その差が、そのままレースに現

れる。平素勉強しなくて、入學

試験で、いくつかんばってみて

その差が、そのままレースに現

われてこいるが部分的にみると、それほど速くなり、100m走をすると、

（×キヨタリハヤシクニハシ）の文字と
銀メダリスト）の文字と
贈りたこと思つます。

中学生から走り始め
て20年、やつとやつと
なれば成人式を迎へ

紙で言えば、たゞ一
枚だが、35日たつと35
枚という厚みと重さにな
なる。長続させること

110kmと死にがんばってみる
ことが、ぶつたまれてしまつ。

しかし、実際には、倒れるま
で走れるものではない。たいて
い、さうした生理的な限界の前

は、がまんできないっても
うだめだ」と物理的限界を感じ
てやめてしまつやうである。こ

れは違います。各附属の親睦と
いふ名の真剣勝負は、それはそ

れは熱戦でした。特に第2試合の逆転勝利は、日本代表が

ノローニアに勝利したときより
も大きな感動となりました。↑

私が練習の基本である。

私は、子供のころから短い距離は、得意ではなかった。長い距離は、スピードが遅いので、

免疫性が習慣となつて高度の苦しみにも、

だんだんと耐えられなくなつた。

私は、スタート



（すみません、少し大きすぎました。）